

科目名 (英)	高齢者の心理と支援 Geriatric Psychology and Assistance	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】

現在、そして今後の人口動態推移から見て、鍼灸師として高齢者に関わることは必然と言える。2018年からは機能訓練指導員の資格要件にはり師・きゅう師が加わり、高齢者分野における職域が拡大している。これを踏まえ、対象者理解と対応力を磨く実践の場として「臨床実習Ⅰ」において高齢者施設への実習が設定されている。本科目は、高齢者を取り巻く社会環境について理解を深めるとともに、実習に向けての準備として対象者理解、施設理解、他職種(福祉職種)理解を促す為に必要な知識や思考について、実際の福祉職種の方との交流やグループワークを取り入れながら講義する。

寺井

実務経験 大学、医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 博士(臨床教育学)、学校心理士

【到達目標】

将来、はり師、きゅう師として関わることを想定し、高齢者の身体的・精神的特徴や高齢者を取り巻く環境を理解し、高齢者とのコミュニケーションの基礎を身につける。

<具体的な目標>

目標①身体的疾患や障害、認知機能障害などにより要介護状態となった高齢者の身体的特徴、及び接する上で配慮すべき点が説明できる。

目標②介護保険制度上の福祉施設の概要、及び施設で従事する福祉職種の概要について説明できる。

目標③今後のキャリアを想定して、高齢者を取り巻く社会環境における鍼灸師の位置付け(役割)について、自身の意見を述べら

授業計画・内容

1回目	「高齢者」についての今の認識を整理できる
2回目	「少子高齢化社会」がもたらすの問題点について、資料を基に考えられる
3回目	「地域包括ケア」について説明できる
4回目	加齢に伴う身体的・心理的变化について理解できる
5回目	高齢者に多い疾患(加齢を起因とする疾患)について、その特徴が説明できる
6回目	生活について深く掘り下げ、「生活者」としての高齢者像を理解できる
7回目	日本の福祉制度と福祉施設について理解できる
8回目	福祉に従事する職業を知り、福祉専門職の方へ聞きたい事が挙げられる
9回目	福祉専門職へのインタビューを実施し、各専門職について説明できる
10回目	実習生に求められる姿を知り、実習の注意事項が理解できる
11回目	実習経験者へのインタビューを実施し、実習目標達成に必要な行動を挙げられる
12回目	「尊厳」の意味を理解し、高齢者の尊厳を保持したケアについて意見を述べられる
13回目	要介護状態の方とのコミュニケーションにおける注意点が理解できる
14回目	介護サービス利用者に対し、自分たちの専門性でどんなことができるか意見を述べられる
15回目	福祉分野における鍼灸師の活躍事例を知り、自身のキャリア設計に活用できる
準備学習 時間 外学習	この科目では、事前の準備学習はさほど必要ではありません(一部、身体疾患について「臨床医学各論Ⅰ」で学んだ知識の予習が必要)。各目標について、2月のデイサービスでの実習を見据え、知っておかなければならない知識の復習(定期試験への対策)と、実践に必要な思考の整理(課題レポートの作成)を、各授業終了毎に行いましょう。
評価方法	成績の評価は、『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験の評価などが含まれる。
受講生 へのメッ セージ	

【使用教科書・教材・参考書】